

こんにちは

-No 4 0

日本共産党 東村山市議会議員



山田たか子です

山田たか子事務所

TEL 395-4973

携帯090-5824-7597

<秋津事務所>

秋津町4-39-71

<青葉事務所>

青葉町2-28-6



都民の
命の議席

尾崎あや子都議 3期目へ!

東村山・東大和・武蔵村山で活動する尾崎都議。皆さんのお力で、3期目へと押し上げていただくことができました。

東京都が責任をもって多摩北部医療センターの運営を。市内で安心してお産ができる病院を。削減され続けた保健

所の増設。国民健康保険税の引き下げ。小中学生給食費無料化。ワクチン・検査でコロナ対策の徹底。要請と補償は一体。オリンピック中止で予算と人をコロナ対策に。

“命と暮らしを守る都政へ”

皆さん、ご一緒に都政を動かしていきましょう!

活動報告・今後の日程

6月12日 市内農家訪問

「税金が高い」「相続が発生すると手放さざるをえない」「人手不足」「後継者がいない」など、切実な声。私たちが生きていくために欠かせない農業。継続が危ぶまれる状況を乗り越えるために、都議・国会議員とともに取り組んでいきます。

7月22日(木)

東村山を変える超党派

議員連盟による議会報告会

東村山市民センターで開催を予定しています。

6月議会
報告①

市民の憩いの場を求めて

青葉第1児童遊園(青葉町2丁目内)と秋津町4丁目第2仲良し広場が、今年の2月に閉鎖されました。理由は、市が公園として借りていた土地の地主さんが、土地を手放す状況となったためです。

「シーソーの有る公園だった」「子どもたちが思い切り走り回れる公園だった」「地域住民も見守れる安心な公園だった」などなど、子どもたちや地域の方からは、多くの惜しまれる声が寄せられています。

今議会では、そうした声を一般質問で取り上げる予定でした。ところが、コロナ対応で議会日程が大幅短縮となり、昨年3月に続き2回目の一般質問の中止。市は既に答弁も用意されていたと思います。せめて、書面で対応してほしいと要望しましたが、ルールが定められていないという理由で、叶いませんでした。

秋津を流れる沢の堀の工事についても、多くの皆さんからの要望を伺っています。

コロナで人との関わりが減っている中で、市民が身近で安らげ、憩える場所も減っています。切実な声を何としても市に届け、対応を検討しよう、これからも地域の皆さんと一緒に求めていきたいと考えています。



北山公園へ

残念ながら今年も中止となった菖蒲まつり。6月終わりに北山公園へ出かけてきました。

木々や草葉が風にそよぐ音。緑の香り。そして淡い色・濃い色の紫の菖蒲。八国山からは「ホーホケキョ♪」とウグイスの声。



誰もが憩える公園、みどり。東村山市民の財産として、市が責任をもった公園管理を望みます。



多摩北部医療センター（たまほく） 機能拡充で産科・小児外科・NICU（新生児集中治療室）を！

「東京都に多摩北部医療センターの医療機能の充実を求める意見書の提出を求める陳情」

1. 地域の実態に見合った医療機能強化を
2. 出産できる産婦人科・手術ができる小児外科・NICUの設置を
3. たまほく運営協議会に市民代表の参加を

について、厚生委員会で議論されました。

現在、たまほくは施設の老朽化により、建て替え計画がすすんでいます。建て替えにあたり、地元自治体や住民・利用者の要望を反映させ、施設の充実を求める市民の陳情です。

委員間では、上記の1と2については概ね賛同が得られましたが、3の必要性が認められず、陳情は不採択となってしまいました。

「市民代表」をどう選出するかという課題はありますが、他の公社病院でも市民代表がいる協議会があります。住民・利用者の声は重要です。なぜなら——

現在、自治体や医師会、たまほくの医師らによる「多摩北部医療センター基本構想検討委員会」が開かれています。産科の必要性が議論されますが、「アメニティを充実させた高級路線の施設検討」などは、利用者ではなく利益を求める運営側の意見です。ただでさえ「教育費」以前の「出産費用の高さ」で出産をためらう声があり、実態とかけ離れた議論がすすめられていく可能性もあるのです。

公的病院の役割は、誰もが安心して利用できる医療の保障です。「採算重視の運営にさせない！」この声も尾崎都議と一緒に求めていきます。



聖火リレーと 全生園セレブレーションをめぐって

「オリパラの聖火リレー・全生園セレブレーション中止を求める陳情」

全生園は、ハンセン病に対する国の政策と、人々の無知から強い偏見と差別が広がり、患者さんは隔離され、苦しんで過ごされてきました。私たちが過ちを二度と繰り返さないために「人の命とは何か」「生きることは何か」人権を考える大切な東村山の財産です。

現在、コロナ感染でも偏見や差別が起きており、感染状況は昨年よりも状況は深刻です。

国民の大多数がオリパラの中止や延期を求める中で強行する姿勢に不安を抱いた市民が、7月13日のイベント中止を求め、生活文教委員会で議論されました。

全生園の入所者の平均年齢は約86歳。高齢者はコロナ感染リスクが高く、感染回避のため、園外の方の入園を断り続けており、命を優先すれば中止は避けられない状況です。

長年、園内で活動されてきた市民グループや、入所者の方の葬儀への参列も断わるほどの徹底です。ところが、イベントには900人を招待して開催するというのです。また、そこには市内小中学生の各校代表も参加。人流・密は避けられません。

「先が見えないコロナ禍だからこそ、このイベントに夢や希望を託すのだ」と、自民党・公明党の反対により不採択となりました。夢や希望も大切ですが、命に代えられるものではありません。その後——

中止を求める署名を地域の方が始め、約2週間という短期間に、589筆集まりました。

6月29日、都の「公道リレー中止決定」により、市内開催も中止となりました。けれどもオリンピック事態を中止し、命最優先の対応に切り替える必要があります。取り返しのつかない事態となっては遅いからです。

＊山田たか子



＊いま しんぶん赤旗 がおもしろい！

日刊紙 月3,497円(一部売130円)
日曜版 月930円(一部売240円)
日刊紙 電子版(月3,497円)



東村山民報 2021年7月号外 山田たか子活動紹介です。
◇東村山民報社◇ 小松恭子 東村山市美住町1-2-5